

## アゲハの大量飼育法

早坂弘次

どの蝶の飼育も同じであるが、いかに食草(樹)を新鮮に長持ちさせるかは重要なポイントの一つである。その為の一方法として発泡スチロールの箱を用いている。

野菜の輸送にこの箱が使われているのは鮮度が保たれるからである。確かにこれを用いると食草は長持ちする。しかし幼虫の生存率がすこぶる悪くなるのである。たぶん湿度と温度が上がってウイルスなどの発生が活発になるからと考えられる。適度に太陽の光をあてて開放した状態で飼育するのが良いのであるがそれでは食草がすぐ乾燥してしまう。

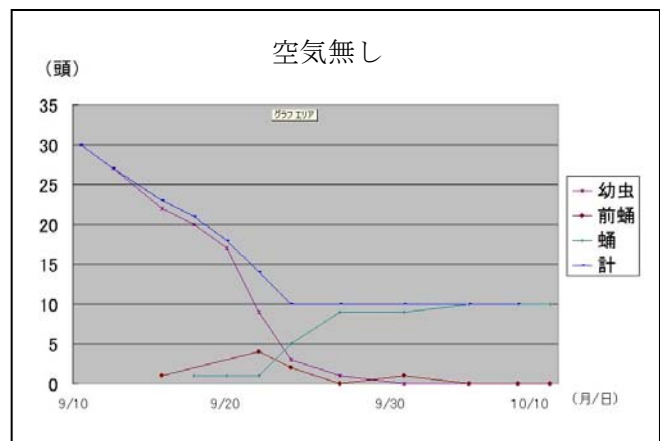
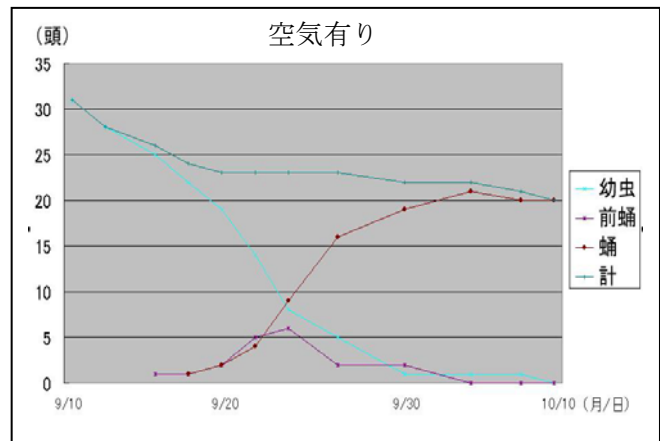
もちろん発泡スチロールの箱は餌替の都度に洗浄している。

先日テレビで「まいたけ」の養殖について放送があった。何度も試行錯誤を繰り返しようやく野外産に遜色の無いものを作る事に成功した。当初「まいたけ」の菌は繁殖するが芽が出てこない。そこで弱い空気を送ったら旨く発芽したとの事である。さっそくアゲハ飼育中の発泡スチロールの箱に空気を送ってみる事にした。具体的方法は金魚の水槽に空気を送るポンプを用いて、なおかつ水槽の浄化装置を経由して湿度のある空気を送ったのである。(添付写真参照)



その効果を確認の為 同じ条件で空気を送らない場合もやってみた。

同じ30幼からスタートし蛹化まで行ったのは空気有りが20蛹、無しが10蛹であった。(添付グラフ参照)



羽化するのを待つて羽化率も確認したいがこの蛹は全て越冬蛹のためそれは来春まで待たなければならない。

但し小生はこの結果が全てとは考えていない。やはり一番良いのは地植えの食草(樹)に袋掛けする方法が最良の方法と思われる。しかしみかんや榎等は兎も角、たとえばトラフアゲハの植樹のユリノキなどは大木の為とても庭に植えておくわけにはいかないのである。

ゆえにこの空気を送る方法も飼育効率を上げる一手段と考えられる。

以上